

将来、研究・開発リーダーを目指す学生の方へ ～日本学術振興会「特別研究員」制度のご案内～

1. 日本学術振興会「特別研究員」とは

「特別研究員」制度は、独立行政法人日本学術振興会により行われている研究者養成事業の1つであり、優れた研究能力を有する**大学院博士課程在学者（DC）及び修了者等（PD）**で、大学その他の**研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」として採用し、研究奨励金を支給する制度**です。特別研究員として採用されると、研究奨励金（生活費）の支給のほか、**特別研究員奨励費（研究費）の交付**も受け取ることが出来るため、**安定した研究活動を遂行**することが可能になります。

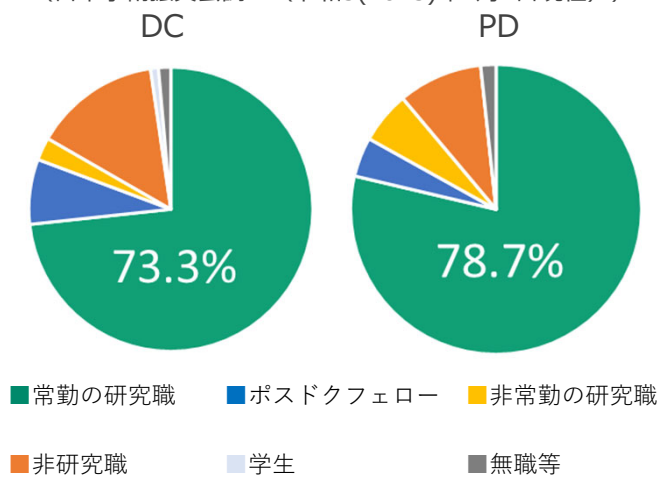
「特別研究員」制度は、優れた若手研究者に対し、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としていることから、本制度は、**研究テーマに対する助成ではなく、将来を担う優れた人材に対する国の投資**であると言えます。

したがって、特別研究員への採用は、国から投資に値する人材であると認められたことにほかならず、就職に際し、その経歴を履歴書に記載することができるなど**研究者として非常に高いステータスを得ること**になります。

実際、右の表が示すとおり、特別研究員採用者のうち、その後、「常勤の研究職」として採用されている割合は、DCが約7割、PDが約8割という結果となっており、**選ばれし若手研究者**といっても過言ではありません。

特別研究員の就職状況調査結果

採用終了5年経過後就職状況
(日本学術振興会調べ(令和5(2023)年4月1日現在))



採用期間、研究奨励金及び研究費

区分	採用期間	研究奨励金 (月額、令和6(2024)年度実績)	研究費 (採用期間内総額)
DC1	3年間	200,000円	450万円以内
DC2	2年間		300万円以内
PD	3年間	362,000円(※1)	450万円以内(※2)
RPD	3年間	362,000円(※1)	450万円以内(※2)
CPD (2024.9.1時点募集停止中)	5年間 (PD採用期間含)	446,000円(※1)	1,500万円以内(※2)

※1 日本学術振興会が実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により、雇用制度導入機関として登録された研究機関に雇用されたPD,RPD,CPDには、研究機関から研究奨励金と同額相当又はそれ以上の給与が支給されます。

※2 別途30%の間接経費も措置されます。

<各区分の説明>

DC1 …大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が3年間の者

DC2 …大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が2年以内の者

PD …大学院博士課程修了者(博士の学位取得後5年未満の者)

RPD …大学院博士課程修了者であり、子の出産・育児による研究中断から復帰した者

CPD …PDに申請しPDに採用中の者が申請可能で、CPD採用後は3年間継続して海外で研究を行う。

2. 「特別研究員」採用後の支援等

「特別研究員」に採用された場合、研究奨励金や特別研究員奨励費による支援のほか、以下のような支援を受けられることも魅力の一つです。

(1) 採用中の海外渡航

研究上の必要がある場合は、一時的に海外の研究機関で研究を行うことができます。特別研究員奨励費等により、通算して**特別研究員の採用期間の2/3を上限として渡航することが可能**であり、長期間にわたる海外での研究経験を積むことができます。また、日本学術振興会において海外の対応機関との連携により、特別研究員を対象とした海外渡航支援も行われております。

(2) 出産・育児等のライフイベントに係る採用の中断及び延長

女性研究者に限らず若手研究者が働きやすい環境整備の一環として、出産・育児等のライフイベントに伴い研究に専念することが困難な場合には、**採用の中断及び延長が可能**となっています。

(3) 研究奨励金及び特別研究員奨励費以外の資金援助

特別研究員は、採用期間中の研究専念義務の範囲内であれば、受入研究機関の寄附金・同窓会組織等による生活費相当の資金援助、自治体・民間企業等の公募による奨学金・助成金を受給することができます。また、特別研究員としての研究課題がさらに進展すると考える研究を実施する場合には、特別研究員奨励費以外の研究費を受給することができます。

(4) (特別研究員PD・RPD・CPDのみ) 研究機関における雇用

日本学術振興会で実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により「雇用制度導入機関」として登録されている研究機関をPD・RPD・CPDが受入研究機関として選択した場合、**研究機関において常勤職相当として雇用**されます。東北大学は「雇用制度導入機関」に登録されており、PD等の給与を82,000円/月加算するなど、同事業による支援に本学独自の支援を合わせた若手研究者支援を実施しています。

東北大学
webサイト



東北大学研究推進部
研究推進課webサイト



3. 「特別研究員」に興味を持った方へ -応募に向けた準備等-

1、2で述べた通り「特別研究員」制度は、研究者を目指す方々にとって、非常に魅力的で且つ重要な制度です。しかしながら、その採用率は決して高くはないため、**学部4年・修士1年等の早い時期から、情報収集や応募に向けた準備を各自で行っておく**ことが重要です。

令和6(2024)年度採用特別研究員 分野別申請数・採用数・区分別採用率

日本学術振興会調べ（令和6(2024)年7月1日現在）

区分		人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学系科学	情報学	生物系科学	農学・環境学	医歯薬学	採用率
DC1	申請数	435	415	639	469	798	376	449	414	596	15.1%
	採用数	61	61	98	73	119	57	71	65	89	
DC2	申請数	594	675	859	530	1,216	509	524	578	882	17.1%
	採用数	102	113	148	92	205	88	92	99	152	
PD	申請数	284	210	320	42	101	32	162	158	180	23.4%
	採用数	64	47	68	6	22	4	44	40	54	

準備① できるだけ、申請までに自身の強みとなる業績等を作ろう

特別研究員の選考においては、①「研究計画の着想及びオリジナリティ」、②「研究者としての資質」についてそれぞれ評価がなされます。そのため、申請書も大きく分けて「研究計画」と「研究遂行力の自己分析」について記載することが求められています。

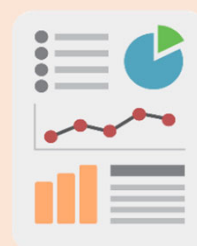
当該研究計画を実行する**研究者としての資質があるかどうかの判断材料となる**

「**研究遂行力の自己分析**」欄には、「研究に関する自身の強み（研究における主体性、発想力、問題解決力など）」及び「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」を記入する必要がありますが、これらについて説得力を持たせるためには、エビデンスに基づいて記載することが不可欠です。その**エビデンスとして重要となるのがそれまでに積み上げてきた自身の研究業績**です。

よって、特別研究員を志す場合、特別研究員としてどのようなテーマの研究を行いたいのか、**指導教員に早めに相談**し、できるだけ申請までにそれを示すことのできる研究業績を書けるようにしておきましょう。特に、**筆頭著者で論文を書くこと、査読無よりも査読有の論文を書くこと、国際学会で発表を行う（筆頭著者として登壇する）** ことなどが重要になります。

研究業績の例

- 学術雑誌等に発表した論文
- 国際学会における発表
- 国内学会・シンポジウム等における発表
- 優れた受賞歴



準備② 申請書を書くための準備に早く取りかかろう

申請書の作成にあたっては、**研究計画を自らよく構想し、指導教員や研究室の先輩からのアドバイス・議論を経たうえで作成する**ことが重要です。特に申請書の中核となる「**研究の位置付け**」、「**研究目的、研究方法、研究内容**」、「**研究計画（採用期間中、何をどこまで明らかにしようとするのか）**」、「**研究の特色と独創的な点**」については**自らの文章で作文**し、指導教員や研究室の先輩に確認してもらったうえで**推敲を重ねる**ことが大変重要です。

また、早いうちに指導教員や研究室の先輩など頼れる方には積極的に相談し、過去の申請書を見せてもらいましょう。各部局において、過去の申請書の閲覧制度を設けている場合もありますので、所属する部局の事務に確認しましょう。

採用者一覧（※）で過去の採用課題を確認することができます。

※ https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_saiyoichiran.html



なお、申請書の内容は毎年度少しずつ見直しがなされます。**応募年度の申請書が公開されたら、日本学術振興会ホームページより速やかに最新の申請書を入手**し、どのような記載が求められているのかを分析のうえ、それに対応することが必要不可欠です。

学内向けの「**日本学術振興会特別研究員募集等に関する説明会**」や、現役の特別研究員に直接申請等の相談をすることができる「**個別相談会**」を開催しています。このような催しに積極的に参加し有益な情報を入手しましょう。

本学の支援一覧

- 特別研究員募集等説明会（You Tube・3月頃配信）
- 個別相談会（Zoom・3月頃）
- 学振特別研究員への採用可能性がぐんとupするtipsの配付（3月頃）
- 申請書作成上のチェックポイント、確認用チェックリストの配付（3月頃）
- 申請書閲覧制度

4. 「特別研究員」採用者の声

特別研究員になるメリットと申請準備で重視したこと

令和6(2024)年度特別研究員DC1採用

教育学研究科 久保田 朋実

研究課題名：学校現場での多職種協働における革新的な意思決定法の構築とその効果の解明



私が特別研究員に採用されて良かったことは、研究の仲間が増えたことです。6月に全国から、特別研究員に採用されて1年目の人が集まるイベント(フレンドシップミーティング)に参加しました。

そこで様々な分野の人と交流し、研究に関する知見を得たり、研究に関する面白い議論をしたりしました。博士課程の学生は研究室にこもりがちになると思うので、外での人脈を広げることは良い機会だと思います。

申請にあたり重要視した点は、多くの人に自分の申請書を読んでもらうことです。私は2月頃から申請準備に取り掛かり、指導教員や周りの大学院生から助言をいただきました。また、学振の申請書は自分の専門外の審査員が読むことも多いため、自分の家族や研究に関わりのない友人たちにも読んでもらいました。「その研究に背景知識のない人も理解できるように書く」これがとても重要だと思います。皆様の健闘を祈っております。



学振フレンドシップミーティング

専門分野外の人に研究の魅力を伝えるということ

令和6(2024)年度特別研究員DC2採用

工学研究科 須郷 大地

研究課題名：力学モデルに基づく即時性と精緻性を兼ね備えた
広域土砂災害予測システムの創成



特別研究員に採用されると、生活費と研究費の支援を受けることができます。私が特別研究員を目指した一番の理由は、生活費の支援を受けて経済的な不安を解消することでした。研究費は、研究に必要な道具(私の場合は数値シミュレーションがメインのため、高性能PCなど)や、国際会議での発表(写真参照)に使うことができ、これは研究を円滑に進めるにあたって大きなアドバンテージです。

申請書の準備では、研究分野全体の大きな背景から、自身の研究がどんなインパクトを持つのかを、専門外の人に上手く伝えるよう表現することを心がけました。わかりやすい表現は、ときにはその言葉の持つ厳密な意味を失う表現をすることになりますが、そのバランスを上手くとって書くことが重要だと思います。申請書の作成は、何度も修正を重ねる大変な作業の繰り返しになりますが、これを通じて自身の研究が持つ意味を上手く伝えられるようになる良い訓練になると思っています。皆さんの挑戦を応援しています。



国際学会での発表 (Firenze, Italy)

より詳しい情報を知りたい方は、[日本学術振興会・東北大学のホームページ](http://www.jsps.go.jp/j-pd/)をご確認ください。

日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-pd/>



東北大学研究推進課 <https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/3jsps/>

